年：1960（昭和35）／1961（36）／1962（37）／1963（38）／1964（39）／1965（40）／1966（41）／1967（42）／1968（43）／1969（44）／1970（45）／1971（46）／1972（47）／1973（48）／1974（49）／1975（50）／1976（51）／1977（52）／1978（53）／1979（54）／1980（55）／1981（56）／1982（57）／1983（58）／1984（59）／1985（60）／1986（61）／1987（62）

会社の変遷

- ●1960年 凸版印刷㈱大淀工場の分工場として紙器の生産スタート
- ●1961年9月 昭和容器㈱設立（資本金1億円）（凸版印刷㈱、昭和アルミニウム㈱、昭和電工㈱の共同出資）
- ●1965年2月 **昭和容器㈱を凸版プラスチック㈱と改称**（資本金１億5千万円）
- ●1962年9月 和歌山凸版印刷㈱として凸版印刷㈱大淀工場から独立（資本金500万円）
- ●1970年9月 紙器部門を閉鎖し、伊丹工場へ移転
- ●1971年7月 凸版印刷㈱佐賀工場設立
- ●1976年4月 凸版越谷加工㈱設立
- ●1976年7月 凸版印刷㈱の福崎工場のプラスチック部門と金属チューブ部門と合併し、凸版関西容器㈱に社名変更（資本金を1,000万円に増資）
- ●1976年10月 凸版佐賀容器㈱として凸版印刷㈱佐賀工場から独立
- ●1985年10月 **凸版プラスチック㈱と合併**

工場の変遷

関東地区

- ●1961年9月 昭和容器㈱越谷工場
- ●1965年2月 凸版プラスチック㈱越谷工場

創立頃の越谷工場

越谷工場の新社屋

相模原工場
1979年（昭和54）に設立した凸版相模原容器㈱の工場としてスタートし、1981年に凸版プラスチック㈱に吸収合併され、当社の相模原工場として新たに稼働した。その後、紆余曲折を経て2011年（平成23）に工場は閉鎖した。

- ●1981年9月 凸版プラスチック㈱相模原工場
- ●1983年7月 川口工場

関西地区

- ●1962年9月 和歌山凸版印刷㈱
- ●1976年10月 凸版関西容器㈱福崎工場

和歌山工場
1962年（昭和37）、和歌山凸版印刷の工場としてスタートし、1976年に凸版関西容器㈱和歌山工場として新たに稼働。1996年（平成8）に当社工場となる。

1975（昭和50）年頃の和歌山凸版印刷㈱の外観

緑につつまれた福崎工場

福崎工場
1975年（昭和50）に凸版印刷㈱関西支社の工場として竣工した。翌年に福崎工場のプラスチック部門、金属チューブ部門が和歌山凸版印刷㈱と合併し、凸版関西容器㈱が設立。その福崎工場として稼働し、1996年（平成8）に和歌山工場とともに当社工場となる。

九州地区

- ●1971年7月 凸版印刷㈱佐賀工場
- ●1976年10月 凸版佐賀容器㈱

当社年表

- ●1965年 インキ缶生産開始

越谷工場正門前での新入社員
凸版プラスチック㈱と改称してまもない頃の記念撮影。社屋は現在と異なる。1974年（昭和49）に新社屋が完成して、現在の姿となった。

- ●1968年 中空成形機導入

昭和容器㈱時代の工場の様子

1960年代の当社製造の製品群

- ●1969年4月 ブロー成形開始
- ●1971年 ベクム成形機5・6号でブルドック300・500生産開始

ベクム成形機

- ●1972年 フィシャー成形機の導入
  高さ 1.8mの製品まで成形できる大型機で、当社が導入した中空成形機としては最も大きな設備であった。製品として、高速道路等のサインポールや大型ゴミ箱などを成形していた。
- 1973年● 多層中空成形容器の開発

各種の樹脂を重ね合わせて、ボトルなどの中空成形（ブロー）容器を共押し出し成形によって製造するという技術で、低公害で保護性の高い容器を可能にした。

- ●1974年2月 越谷工場新社屋完成
- ●1974年 高速薄肉成形機生産開始
- ●1975年 社内報発行

『TOPPAN PLASTIC News』として創刊された社内報は、その後、『プラス 1』と誌名を変えて発刊し続けたが、2006 年 3 月の 41 号をもって廃刊した。

- ●1976年 多層技術の設備導入
- 1979年● アースレッド容器の開発

お客様のいくつかの課題に応えて、プラスチック容器の形状、成形において新製品の開発を支援した。

- 1979年● 多層構成の新ラミネートチューブ技術の導入

ガスバリア性、防湿性、保香性等の特長がある新ラミネートチューブの技術を導入し、1981年には花王コルゲートオーラルプロダクツ㈱様の「こどもコルゲート歯磨」の3種のチューブに初めて採用された。

- ●1977年5月 農薬ボトル開発で第1回木下賞受賞

木下賞は、日本包装技術協会会長として長年幅広い活躍をされた木下又三郎氏の功績を称えて設けられた賞で、研究開発部門と改善合理化部門の2部門で各1点が選ばれた。その記念すべき1回目に受賞した農業用プラスチック容器は、日産樹脂㈱と共同開発した、異なる樹脂を成形した多層プラスチック容器であった。

- ●1980年 鮮度保持剤生産開始

鮮度保持剤は、現在も佐賀工場の主力製品として製造されている。

- ●1981年 延伸ブロー成形機開発
- ●1982年12月 相模原工場クリーンルーム完成
- ●1984年 射出成形機生産開始
- ●1984年
  - 金属チューブの生産中止
  - 多層押出チューブ生産開始
- ●1984年7月 新型精密陶器開発

1970年代の終わり頃からセラミック分野の研究が続けられ、その一つの成果として新型精密陶器「トッパン・ファイン・ポースリン」の開発・生産へと発展した。当時、印刷会社が新しい技術を掲して陶器分野に進出したことは世間から注目され、話題を呼んだが、需要が思うように伸びず、最終的に撤退を決断した。

- ●1985年 ダイレクトブロー撤退
- ●1987年 延伸PET成形開始
- 1987年10月● CADシステム導入

■関東地区　■関西地区　■九州地区

年	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
	昭和63	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27

会社の変遷

- ●1991年7月 トッパンプラスチック㈱に社名変更
- ●1996年10月 トッパンプラスチック㈱と合併
  - ●1997年 トッパンキャップテック㈱設立
  - ●2002年 ㈱トッパンハリマプロダクツ設立
- ●2010年 トッパンプラスチック㈱と合併
  - ●2009年4月 凸版西日本印刷加工㈱佐賀工場に社名変更

工場の変遷

- ●1991年7月 トッパンプラスチック㈱越谷工場
- ●2003年 相模原工場は射出成形特化工場として再スタート（ラミネートチューブ事業は和歌山工場に集約）
  - **幸手工場** 相模原工場閉鎖計画に伴い、2010年（平成22）10月から凸版印刷㈱幸手工場の一部に移設準備を開始し、2011年4月から当社の幸手工場として本格稼働した。

  - ●2011年2月 相模原工場閉鎖
  - ●2011年12月 川口工場閉鎖
  - ●2010年10月 トッパンプラスチック㈱幸手工場
- ●1996年10月 トッパンプラスチック㈱福崎工場・和歌山工場

福崎工場

和歌山工場

- ●2003年 ラミネートチューブに特化（関西地区）
- ●2010年 プリフォーム事業を㈱トッパンハリマプロダクツに集約
- ●2010年4月 トッパンプラスチック㈱佐賀工場
  - ●2009年4月 凸版西日本印刷加工㈱佐賀工場
  - **佐賀工場** 1976年（昭和51）にスタートして以来、2010年（平成22）に当社工場になるまで、凸版佐賀容器㈱として稼働していた。

当社年表

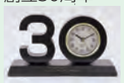
- ●1988年 インモールドラベルの採用

ボトルの成形と同時にラベル貼りも行う「インモールドラベル」方式が宝酒造㈱様の「タカラ本みりん」等に採用され、ボトルとラベルに一体感があり、すっきり美しい仕上がりが注目された。

- ●1989年 延伸PETボトル成形開始
- ●1991年 エコテナー生産開始
- ●1991年 フレームシーラー導入
- ●1992年 ・成形機生産開始 ・ラミネートチューブ製造開始
- 花王㈱様の「クリアクリーン」スタンディングチューブが、外箱を取り去った省資源効果と易焼却性などが評価され、工業技術院長賞を受賞した。

- 当社が製造した3層構造のブロー成形ボトルが、中間層に再生材料を使用した点が高く評価され、この年の日本印刷産業連合会主催のJPC展で最高賞の通産大臣賞を受賞し、当社の多層ブロー成形技術の高さを証明した。

- ●1995年2月 創立30周年



創立30周年を記念して、社員全員に置時計が贈られた。

- ●1995年 スタンディングチューブが工業技術院長賞を受賞
- ●1995年 ジャパン・パッケージング・コンペティション（JPC展）で最高賞を受賞
- ●1995年 PETプリフォーム開始
- ●1996年 ロータリーブロー導入
- ●1997年 シームレスラミネートチューブの量産開始
- ●1998年2月 TPMキックオフ

- 越谷工場では、2001年（平成13）にTPM優秀賞第1類受賞を記念して、記念植樹を行った。記念プレートとともに玄関前に現存している。

- ●1998年 ヘラフ成形機導入
- 2001年6月● 資本金を10億円に増資
- 2001年11月● TPM優秀賞第１類受賞
- ●2001年 アイス容器の生産開始

ソフトクリームなどをつくるアイスマシンの販売を手掛けるお客様のご要望で、2001年（平成13）からアイス容器の製造を開始した。

- ●1999年 播磨でプリフォーム製造本格開始
- 2001年4月● ボトルドパウチ量産開始
- 2001年9月● ISO9002認証取得
- ●2002年10月 ISO9001認証取得
- ●2003年 GL-Cボトル量産化

当社オリジナルの無色透明プラスチック容器であるGL-Cは、品質の長期維持が可能。さらに風味のもとになる香気製品を長期間保存ができ、食品やトイレタリー製品などで多数の採用実績を誇っている。

- ●2003年11月 TPM優秀賞第1類受賞
- ●2004年2月 資本金4億円に減資
- ●2004年11月 TPM優秀継続賞第1類受賞
- ●2005年4月 ISO9001取得
- ●2006年 アクティブパッケージ製造開始
- ●2006年2月 ISO9001認証取得
- ●2006年12月 ISO14001認証取得
- ●2006年9月 TPM特別賞第1類受賞
- ●2007年11月 ISO14001認証取得
- ●2008年3月 全凸版改善事例大会最優秀賞受賞
- ●2008年 社長表彰品質向上賞受賞

アイス容器の製造開始以来、「チョコ停」（些細な障害による機械停止）がたびたび発生していたが、7年間「クレームゼロ」という高品質な製品供給体制を維持してきた功績が認められた。

- ●2008年4月 紙製複合容器製造開始
- 2012年8月● 医薬品製造業許可取得
  - **遺伝子型解析システム** 個人の体質に合わせて病気の予防や治療を行うオーダーメイド医療の実現に向け、(独)理化学研究所と共同研究でSNP解析システムの開発を行っている。

- ●2012年11月 ISO13485認証取得
- ●2012年12月 FSSC22000認証取得
- ●2013年4月 ISO13485認証取得
- ●2014年1月 ISO13485認証取得

■関東地区 ■関西地区 ■九州地区